

お元気ですか

ニュースを読んでご
意見をお寄せ下さい。

区議会議員

南 恵子

TEL 3790-1523

です



発行責任者 **日本共産党品川区議会議員 南 恵子** 八潮5-12-65-503

メールアドレス minami@jcp-shinagawa.com

今年も 保育園に入れなかったこども478人 認可保育園の増設しかない

民主党政権は、子どもを保育する国の責任をなくす「子ども子育て新システム」関連法案を国会に提出しようとしています。待機児が増える一方なのに、国が子育てに責任を持とうとせず、保育園増設も民間任せです。4月、区内に6ヶ所の保育園が新しくオープンしましたが保育園に入れない待機児が今年もいました。

民主党政権は、「地域主権」の名で児童福祉施設などの最低基準を撤廃しました。面積基準については、地方（条例）は国の基準に従うとしたものの、待機児童の多い35自治体では、4月から3年間の時限措置で引き下げを容認しました。

品川区立の保育園ではすでにぎゅうぎゅう詰め

品川区はそこには入っていませんが、すでにぎゅうぎゅう詰め保育になっています。

区内のある保育園では、1歳児が28人もいます。保育士たちは年齢が小さいだけに、子どもたち一人一人に寄り添えるにはどう

いう保育にしたらいいのか話し合っているといえます。月齢で

会派の変更届けが出されました

4月1日付で会派の変更届が出ました。

変更内容は、みんなの党の大西光広議員、吉田あつみ議員が無所属品川に入り、無所属品川にいた渡部茂議員が自民党に、自民党の原浩三議員が無所属品川に入りました。無所属品川の会派名は「みんな・無所属品川」となります。従って、会派の数は6から5になりました。

分けて1歳児前半のグループ、後半のグループなどにするか、4・5月生まれの子どもは2歳児と一緒に過ごす時間を多くするなど、保育を「工夫」してはどうかなどと検討しているというのです。

しかし、元々保育士の数が少ないのでグループ分けをするにもうまくいかない・とため息しかでないと嘆いていました。

確かに、待機児が毎年多くなる一方なので、一人でも多く入れるようにするべきだと思います。

しかし、品川区はすでに児

童の定員を多くしてきました。その上さらに「弾力化」といつて、子どもを詰め込んでいるのです。子どもの立場からみると「ぎゅうぎゅう詰め」の保育」です。いいのでしょうか。

保育園は、子どもにとってのびのびと遊べる施設でなければなりません。また、働く人にとっても安心して預けられる施設でなければなりません。両方が安心できなければだめなのです。

ところが、民主党政権は子どもを健全に育てるといふ国の責任を投げ出しただけでなく、財政上の責任も捨てて、民間に任せるといふのです。

子ども子育て新システムは認められない

物心つくかつかないうちに要求が十分に満たされない時

間が長く続く生活で、健全に育つのでしょうか。「保育」とはいえない制度です。

品川区の冷たさが区営住宅に見える

先週号に続いて区営住宅問題を報告します。

品川生活と健康を守る会が、毎年、品川区に要望をまとめて提出していますが、回答が届いたとの知らせがありました。

区の冷たさが見えると同様に、入所したくてもなかなか当たらず困っている区民の気持ちを受け止めようとしていない区の姿勢に、あらためてあきれました。また、こんな区政に怒りを覚えました。

4月22日大井町街頭演説 (阪急前)
ぜひ みんなでお出かけください

「区営住宅の増設を」という要望にたいする回答には、次のように書いてありました。

「18 区営住宅の入居収入基準額は、平成21年の公営住宅法改正に伴い現行の月額15万8千円に改正されております。この改正の趣旨は限られた住宅戸数に対し、入居収入基準額を広げることには競争倍率を高め、住宅に困窮する低所得者や増加する高齢者が入居できない状況を打開するために

行われたことを申し添えます。」という内容でした。

法律に沿って仕事をしているという姿勢だけで、区民の痛みも生活の厳しさを深刻さをまったく見ようとしていません。

区は「既存住宅ストックの活用」と繰り返しいますが、活用できるように区が何らかのサービスをしているのではなく、高い家賃でもあいているから入れというだけのことです。区民の目線にたった自治体をつくらねばと思います。みなさんはいかがですか。

生活・雇用・子どもだて

教育など何でもお気軽にご相談ください
連絡先 **南恵子区議会議員** 電話(3790)1523